

連、採食レパートリーや技術の伝搬、実験室での選択実験や栄養分析など多様な側面から研究することを目的とした。

この課題は3年計画ではあったが、実際に応募された研究は、平成11年度2件、平成12年度2件であった。平成13年度は、応募がなくこの計画課題は成立しなかった。実行されたテーマは、食物選択が母から子にどのように伝達されるのかというメカニズムの研究、食物選択がサルが土を喰うという行動とどのように関係しているのかという研究、テレメーターを用いて大小二つの群れの行動域の広さとテリトリアリティーを調べる研究が行われた。平成11年7月8日には、「ニホンザルの食物選択と採食競合」という題で共同利用研究会を開いた。食物選択のメカニズムや採食戦略に関する最新の成果が報告された。ただ、食物選択のメカニズムの研究はかなり緻密な論理と研究のアイデアを要するためか、実際の応募が少なかったことは悔やまれる。

(平成11年度)

上野有理 (京都大)

ニホンザルの新生児における採食行動の発達

Wakibara, James, V. (京都大)

The adaptive significance of geophagy in food-enhanced free-ranging Japanese macaques at Arashiyama, Japan

(平成12年度)

上野有理 (京都大)

ニホンザルにおける採食行動の発達

揚妻直樹 (北海道大)

白神山地山麓に生息するニホンザルの遊動：個体レベルの遊動パターンの解明

(文責：森明雄)

野生ニホンザル地域個体群の動態と保護管理

(実施年度：平成11年～13年度)

(推進者：渡邊邦夫・室山泰之・杉浦秀樹・後藤俊二・鈴木晃)

本研究課題は、近年日本各地で深刻な社会問題となっている野生ニホンザルの実状を把握し、かつその保護管理のための具体的方策を考えることを目的として計画された。屋久島から青森まで、幅広くニホンザルの分布域をカバーした研究が進められたが、内容も生息分布の基礎調査から人為による攪乱の影響、猿害と自然環境との関連、被害対策とそれによる群れの行動変化など、非常に多岐にわたっている。本研究課題と関連して「野生

ニホンザル地域個体群の管理手法」という共同利用研究会が平成12年度と13年度に開催されたが、現在日本各県で進められている野生鳥獣保護管理計画の見直しに係わっている研究者が多数参加しており、本課題研究もそれと密接な関連をもったものとして遂行された。ただし野生ニホンザルの保護管理問題は単に自然科学の方法論の中におさまるものではなく、その意味で現在日本社会から要求されている課題の大きさに比すと隔靴搔痒のごとき感が無きにしもあらずだったのはやむを得ないことなのかもしれない。今後この課題はより専門性をもった保護管理策を模索するものになるであろうが、一定地域における長期継続観察が非常に重要な役割を果たす場合が多く、その二つの側面をあわせもった研究が主流になるものと思われる。本研究課題の成果は、すでにいくつかの和文報告書や著書の中に発表されており、また今後そうした発表が続いてくれることを期待している。

(平成11年度)

渡辺義雄 (美作女子大)・林勝治 (広島県大)

中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調査

赤座久明 (富山県立雄峰高校大沢野分校)

黒部川流域に生息するニホンザル個体群の動態 (ダム建設に伴う誘導域の変動)

今井一郎 (弘前大・人文)

白神山地暗門川流域のニホンザルの保全に関する基礎調査

西邨顕達・高木理代 (同志社大)

南山城地域におけるニホンザルの保全生態学的研究

(平成12年度)

渡辺義雄 (美作女子大)・林勝治 (広島県大)

中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調査

福田史夫 (共立薬大)

丹沢東北山塊におけるニホンザルの生息と人間活動の影響

赤座久明 (富山県立雄峰高校大沢野分校)・加藤満 (愛知県立旭野高校)

黒部川流域に生息するニホンザル個体群の動態 (ダム建設に伴う誘導域の変動)

好広真一 (龍谷大)・大竹勝 (犬山市、愛知県)

中高度域にすむヤクシマザルの食性と人口学的資料の収集

Hill David (サセックス大)

屋久島における野生ニホンザルの猿害群の春・秋期

の採食生態

鈴木克哉 (北海道大・文)

青森県下北郡佐井村に生息する野生ニホンザルの生態
調査と保護管理

(平成 13 年度)

福田史夫 (共立薬大)

丹沢東北山塊におけるニホンザルの生息と人間活動
の影響

揚妻直樹 (北海道大・農)

白神山地におけるニホンザルの群れ分布の把握

Hill David (サセックス大)

屋久島の永田地区周辺のニホンザルの猿害群の採食生
態

渡辺義雄 (美作女子大)・林勝治 (広島県大)

中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調
査

好広真一 (龍谷大)・大竹勝 (犬山市、愛知県)

中高度域におけるヤクシマザル調査法の検討と人口学
的資料の収集

赤座久明 (富山県立雄峰高校大沢野分校)・加藤満 (愛知
県立旭野高校)

黒部川流域に生息するニホンザル個体群の動態 (ダム
建設に伴う誘導域の変動)

鈴木克哉 (北海道大・文)

青森県下北郡佐井村に生息する野生ニホンザルの生態
調査と保護管理

(文責：渡邊邦夫)

3. 共同利用研究会

霊長類の生体防御と疾病(2): B ウイルスおよび関連ヘルペスウイルス

日 時: 2001 年 9 月 22 日 (土) 9:30~17:00

場 所: 犬山国際観光センター・フロイデ・

3 階第 1 会議室

参加者: 約 30 名

セッション I: 座長: 清水慶子 (京都大・霊長研)

山内一也 (日本生物科学研究所)

「B ウイルス・関連ヘルペスウイルス概説」

長 文昭 (感染研・TPC)

「B ウイルスフリーカニクイザル作出のための室内
繁殖の概要とその成績」

セッション II: 座長: 佐藤 浩 (長崎大・医)

藤本浩二 (予防衛生協会)

「SA-8 (アフリカミドリザル由来 α ヘルペスウイル
ス) を利用した B ウイルス抗体代替検査法」

光永総子・他 (京都大・霊長研)

「改良 HVP2 ELISA 法: マカクサル B ウイルスの感
染モニタリングへの応用」

平野 真・他 (京都大・霊長研)

「B ウイルスの DNA 診断: B ウイルス特異的 PCR
法の確立」

セッション III: 座長: 松林清明 (京都大・霊長研)

大沢一貴 (長崎大・医)

「ニホンザルの B ウイルス: マカクでの系統比較」

吉川哲史 (名古屋大・医)

「単純ヘルペスウイルスの潜伏感染機構」

セッション IV: 座長: 景山 節 (京都大・霊長研)

中村 伸・他 (京都大・霊長研)

「B ウイルスに対する DNA ワクチンの開発」

木村 宏 (名古屋大・医)

「ヒトサイトメガロウイルスの感染防御と DNA ワク
チン」

総合討論

座長: 藤本浩二・中村 伸

(世話人: 中村 伸・藤本浩二・清水慶子・

松林清明・景山節)

サル B ウイルスに関する上記プログラムのワークシ
ョップを開催し, up-to-date な研究成果の紹介と活発
な討論がなされた。

今回の研究会では, 国内の B ウイルス研究者が初め
て一堂に会し, 関連研究の発表・討論・情報交換が出来
たことは非常に有意義であった。さらに, 本研究会を契
機に 2002 国際霊長類学会 (8 月, 北京) での国際 B ウ
イルスシンポジウム (オーガナイザー: 中村 伸・向井鏝
三郎) が企画され, 関連研究のさらなる発展に繋がって
いる。

(文責: 中村 伸)

野生ニホンザル地域個体群の管理手法

日 時: 2001 年 9 月 29~30 日 (土・日)

場 所: 京都大学霊長類研究所大会議室

9 月 29 日 (土) 13:00~17:00 座長: 三戸幸久